



主任コラム7月号

主任 澤井 良子

朝、保育室を回っていると0.1歳児クラスで、登園して来た一人の子が「(お) はよ」と言うと周りの子が『(お) はよう』と言って挨拶を交わしている姿を見て癒されました。まだ生まれて1年と少しの子ども達が保護者や大人の挨拶する姿を耳にして真似ていると思うと、こちらの言葉や表情も環境の一部だと感じます。

6月からは、ひよこ・りす組、こくら組では保育参加が始まり保育士体験をしていただいています。お父さん、お母さん、おばあちゃんのご参加があり、お家の方にべったり甘える姿や、逆にいつも通りの姿で友達と遊んでいる子もいます。活動に参加される中で、以上児クラスでは給食の配膳もお手伝いして頂き、一人一人に「このぐらい食べられる？」と聞きながら盛り付けてもらっています。子ども達も食べられる量を伝え、苦手で減らして欲しいことなどもきちんと伝えていきます。普段の姿や保育園の流れを、お迎えの時のお話や写真だけでは保護者の方には、なかなか伝わり切れない部分もあると思いますが、実際にお子さんのクラスに入る事で、我が子の友達関係や給食のセミバイキングで、どのくらいの量を自分の言葉で伝えて食べているのか、小さいクラスで、園では手づかみなのか、フォークを用いて食べられているのかなどを見て頂くことで集団と家庭での様子の違いや、同じ年齢の子がどのような発達段階なのかということも知っていただけたのではないかなと思います。参加前には、園長の方から「子ども達が手を差し伸べてきた時や困って言って来た時には、応答的に関わって聞いてあげて下さい。それ以外の時は、いつでも声を掛けられる（助けを求められる）位置で見守っててくださいね」とお伝えしています。保護者の方には子ども達に丁寧に関わって頂き、お帰り際には「楽しかった」と言った感想を頂いています。ひよこ・りす組は今月で参加の申し込みが終わりますのでたくさんご参加をお待ちしています。

先月は、昨年度から滋賀県草津市「ののみちこども園」さんに、うさぎ組担任と、こくら組担任が2日に分けて施設見学に行かせて頂きました。子ども達が主体的に関わるにはどのような環境を保育士が用意したらいいのか、子どもの声を聞き大人主導型ではなく保育できているのか、毎日の保育の振り返りを職員同士でできているのか、子ども達の姿を見て子ども達の訴えを十分に聞いてあげられているだろうか（どうするの？やる？やらない？など満足いくまで向き合っているのか）、子ども達の困りごとが発達段階なのか、保育環境なのか、その子自身の個性なのかを考えて関わっているのだろうか、などたくさんの方々の日々の保育について話をしました。他園を見学することで自園での保育を振り返り、新たに感じたことを伝え仲間と共に実践していくことの大切さを学ぶことができたのではないかなと思います。一人として同じ子はいないので、保育士にとって毎日の学びと振り返りが必要となります。目の前にいる子ども達の発達や、環境が子ども達にとって『最善であるかどうか』を常に考えながら保育していきたいと思えます。

